

日本オリエント学会第60回大会プログラム

2018年10月13日(土)・14日(日)

主催：日本オリエント学会 会場：京都大学吉田キャンパス

第1日 10月13日(土) 14:00～20:00

*公開講演会(共催：京都大学イスラーム地域研究センター)

会場：京都大学吉田キャンパス文学部校舎2階第3講義室

13:30 開場

14:00～14:10 開会挨拶

14:10～17:00 第321回公開講演会「オリエント世界の王権」

第1講演：柴田大輔(筑波大学)

「古代メソポタミアの王権—神々、王、知識人—」

第2講演：森本公誠(東大寺)

「前近代イスラム期の王権とカリフの実像」

第3講演：小杉泰(京都大学)

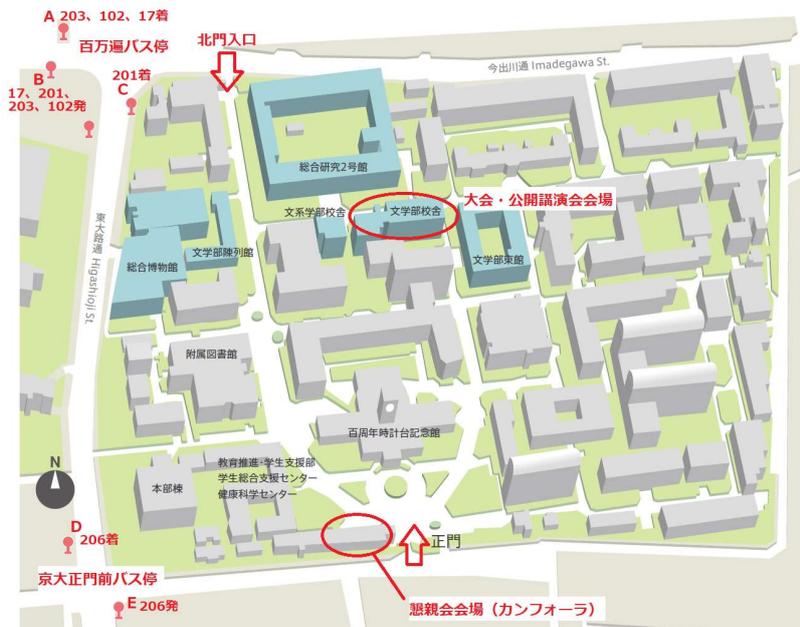
「現代中東における君主制とイスラーム」

18:00～20:00 懇親会(会場：吉田キャンパス正門近く「カンフォーラ」)

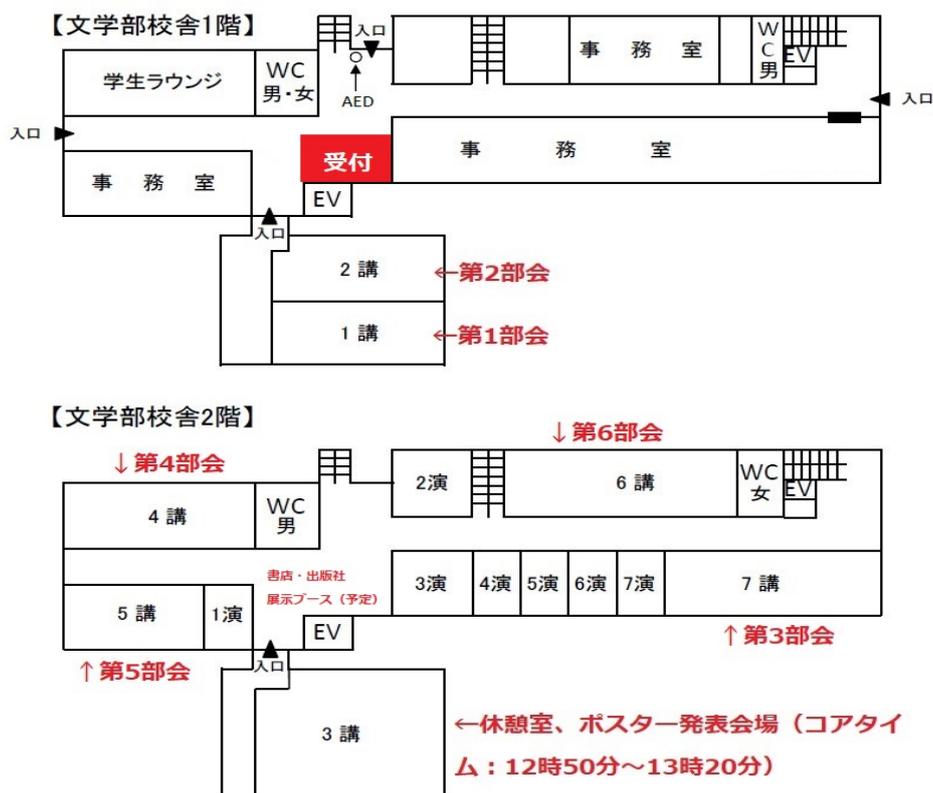
第2日 10月14日(日) 10:00～17:00

*研究発表会

会場：京都大学吉田キャンパス文学部校舎1階第1～2講義室、2階第3～7講義室



第2日 [10月14日(日)] 研究発表会 部屋割・時間割 (10:00~17:00)



第1部会 第1講義室(1階) (発表時間 20分、質疑応答 5分、予鈴は1鈴 15分、2鈴 18分、3鈴 20分で鳴ります)

	時間	発表者	発表題目
1	10:00~10:25	安倍雅史・後藤健・西藤清秀・上杉彰紀・堀岡晴美・原田怜・間舎裕生	バハレーン、ワーディー・アッ=サイル考古学プロジェクト第4次調査の報告
2	10:30~10:55	細田あや子	メソポタミアのアーシブによる儀礼
3	11:05~11:30	村井伸彰	アクル文書の行政的文脈について
4	11:35~12:00	山本 孟	ヒッタイト王国による東西の辺境支配について—アナトリア西部の支配を中心に—
昼食休憩(休憩室:2階第3講義室)			
P	12:50~13:20	ポスター発表コアタイム(2階第3講義室)	
5	13:30~13:55	山田雅道	王 vs. 市神—エマル文書における「主」とは誰か—
6	14:00~14:25	佐野克司	アッシリアの大規模強制移住政策を再考する
7	14:30~14:55	青島忠一朗	シャルマネセル3世の年代記における治世第28年の遠征記事の役割
8	15:05~15:30	渡辺和子	『エサルハドン王位継承誓約文書』にみる条件節の用法を再考する
9	15:35~16:00	渡辺千香子・Jamie Novotny	アッシュルバニパルの王宮浮彫に表現されたライオンに関する考察
10	16:05~16:30	高橋優子	「エサルハドン王位継承誓約文書(ESOD)」の「申命記(Dt.)」への影響—直接的文学的引用関係の痕跡を探る—
11	16:35~17:00	長尾琢磨	エルサレムにおけるヘレニズム化—石切墓の形態から—

第2部会 第2講義室(1階) (発表時間 20分、質疑応答 5分、予鈴は1鈴 15分、2鈴 18分、3鈴 20分で鳴ります)

	時間	発表者	発表題目
1	10:00~10:25	西秋良宏	ザグロス地方中期旧石器時代石器群の変異
2	10:30~10:55	前田 修	クルディスタン原新石器時代における押圧剥離石刃製作の開始について
3	11:05~11:30	西山伸一	西アジア鉄器時代集落の構造的考察—北メソポタミアおよびレヴァント地方における「都市」と「村落」クラス集落の比較から—
4	11:35~12:00	関廣尚世・Elgazafi Yousif Eshhag	『古代スーダンの鉄製品に関する研究試論』—スーダン国立博物館所蔵資料から—
昼食休憩(休憩室:2階第3講義室)			
P	12:50~13:20	ポスター発表コアタイム(2階第3講義室)	
5	13:30~13:55	上杉彰紀	広域測量による南インド巨石文化遺跡の検討
6	14:00~14:25	米山由夏	古代エジプト、末期王朝時代からプトレマイオス朝時代の単純埋葬の埋葬方法に関する一考察
7	14:30~14:55	横山 操	京都大学総合博物館エジプト考古資料 コプト織物について
8	15:05~15:30	坂本 翼	イシス信仰の終焉—ヘサ島の再評価を中心に—
9	15:35~16:00	Mohamed Soliman	Spatializing the Topography of Islamic Alexandria-Historic Maps via Remote Sensing and GIS
10	16:05~16:30	杉本智俊	十字軍期南レヴァント地域における農業集落の性格—ベイティン村発掘調査の成果に基づいて—

第3部会 第7講義室(2階) (発表時間 20分、質疑応答 5分、予鈴は1鈴 15分、2鈴 18分、3鈴 20分で鳴ります)

	時間	発表者	発表題目
1	10:00~10:25	中野智章	エジプト第1王朝のサッカラ墓地における付属墓について
2	10:30~10:55	柏木裕之	クフ王第2の船の木材搬入方法について
3	11:05~11:30	山田綾乃	番付分析を用いたクフ王第2の船甲板梁の配置に関する検討
4	11:35~12:00	矢澤 健・吉村作治	エジプト・ダハシュール北遺跡の中王国時代における葬制の特質とその背景
昼食休憩(休憩室:2階第3講義室)			
P	12:50~13:20	ポスター発表コアタイム(2階第3講義室)	
5	13:30~13:55	石崎野々花	エジプト新王国時代、黒色木棺の編年に関する一考察
6	14:00~14:25	河合 望	ヘリオポリス出土のトウトアムン王銘入りレリーフ・ブロックについて
7	14:30~14:55	野中亜紀	アマルナ時代の音楽に関する一考察—TUT's Trumpets の分析・考察を通して—
8	15:05~15:30	高橋寿光	古代エジプト、青色彩文土器の生産地の変遷について
9	15:35~16:00	和田浩一郎	アコリス遺跡出土の「結びの護符」
10	16:05~16:30	安岡義文	末期王朝時代のエジプトにおける人体像のプロポーションに関する解釈について
11	16:35~17:00	田澤恵子	古代エジプトのファイアンス製ウシェブティに関する新たな様式分析への一試案—通称「キャンベル墓」(ギザ)出土のウシェブティからわかること—

第4部会 第4講義室(2階) (発表時間 20分、質疑応答 5分、予鈴は1鈴 15分、2鈴 18分、3鈴 20分で鳴ります)

	時間	発表者	発表題目
1	10:00～10:25	榮谷温子	クルアーン 18章 38節と 34章 27節の「事柄の代名詞」について
2	10:30～10:55	竹田敏之	クルアーン正書法とラスム学の確立—マグリブ・アンダルス学派の形成を中心に—
3	11:05～11:30	村上武則	クルド語クルマンジー方言のエザーフェと関係代名詞
4	11:35～12:00	五十嵐小優粒	書き言葉におけるペルシア語受身の出現様相—日・英・仏と比較して—
昼食休憩(休憩室:2階第3講義室)			
P	12:50～13:20	ポスター発表コアタイム(2階第3講義室)	
5	13:30～13:55	春田晴郎	イランにおける「都市」を表わす語の変遷
6	14:00～14:25	四角隆二	サーサーン朝カット・ガラスに関する一考察
7	14:30～14:55	津村眞輝子	境界を越える金属貨幣の実態—サーサーン朝ペルシアの事例を中心に—
8	15:05～15:30	Begmatov Alisher	ムグ山文書の言語的特徴
9	15:35～16:00	土谷遙子	法顕が巡礼した『陀歴』(ダレル)に至るパミールからの四つの道筋—パキスタン北部地方『法顕の道』現地調査(1991 - 2015)—
10	16:05～16:30	下山繁昭	『隋書』倭国伝にみる謎の王朝の存在—日本の歴史から忘れ去られた王—

第5部会 第5講義室(2階) (発表時間 20分、質疑応答 5分、予鈴は1鈴 15分、2鈴 18分、3鈴 20分で鳴ります)

	時間	発表者	発表題目
1	10:00～10:25	田中悠子	アラビア語伝記史料における「ズインディーク」文人像の変遷—叙述における主題のとしての「異端(者)」の機能—
2	10:30～10:55	辻 大地	アッバース朝期イスラーム社会における「性的倒錯者」
3	11:05～11:30	大塚 修	普遍史書としての『バナーカティー史』—『集史』の呪縛から離れて—
4	11:35～12:00	角田哲朗	マフディーかく語りき—サイド・ムハンマド・ムシャアシャアのマフディー自称論理—
昼食休憩(休憩室:2階第3講義室)			
P	12:50～13:20	ポスター発表コアタイム(2階第3講義室)	
5	13:30～13:55	久保亮輔	マムルーク朝期カイロにおける施設経営の実態
6	14:00～14:25	手島秀典	マムルーク朝末期における有力アミールの昇進過程—スルターン・カーイトバーイ治世期における政府要職就任者の経歴に関する考察—
7	14:30～14:55	小澤一郎	19世紀末イランの兵員簿の検討—イランにおける「軍隊の社会史」研究に向けて—
8	15:05～15:30	阿部克彦	松浦家伝来渡来上着にみられるサファヴィー朝期織物について
9	15:35～16:00	坂田 舜	ネズィヘ・ムヒッディン(1889-1958)の論説に見る「トルコ人女性」

第6部会 第6講義室(2階) (発表時間 20分、質疑応答 5分、予鈴は1鈴 15分、2鈴 18分、3鈴 20分で鳴ります)

	時間	発表者	発表題目
1	10:00~10:25	柳橋博之	イスナードの定量的分析の試み
2	10:30~10:55	Khashan Ammar	アブー・ハニーファの『ムスナド』をめぐる論争と評価—ハディース学から見たハナフィー法学派—
3	11:05~11:30	堀井聡江	初期イスラーム法学における 12 イマーム派とスンナ派の学説的関係の一考察—選択権を中心に—
4	11:35~12:00	矢口直英	議論の場としての『医学典範』注釈—クトゥブッディーン・シーラーズィー『サアドへの献呈書』—
昼食休憩(休憩室:2階第3講義室)			
P	12:50~13:20	ポスター発表コアタイム(2階第3講義室)	
5	13:30~13:55	尾崎貴久子	モンゴル時代の漢語イスラーム医学書『回回薬方』の外科治療記述について—第34巻金瘡門折傷門を中心に—
6	14:00~14:25	末野孝典	西アフリカにおけるイブン・アラビー思想の影響に関する一考察—イブラーヒーム・ニヤースの著作群を事例に—
7	14:30~14:55	齋藤正憲	バングラデシュの呪術師—成巫過程における夢の役割—
8	15:05~17:00	企画セッション: イスラーム王朝の正統性—古典的枠組みを越えて— 亀谷学「アッバース朝期におけるカリフ観の変容」 佐藤健太郎「西方のカリフ政権とイブン・ハルドゥーン」 森本一夫「モンゴル支配期以降のペルシア語文化圏における統治の正統性と政治的権威—近年の研究動向—」 討論者・コメンテーター:近藤信彰	

ポスター発表:コアタイム 12:50~13:20 第3講義室(2階)

※当日午前中にポスターの掲示作業を完了してください。

※各発表者の方は、コアタイムの冒頭で1分間のショートトークをお願いします。

	発表者	発表題目
1	坂本 翼・銭廣健人	岡島誠太郎の再評価
2	山田綾乃・柏木裕之	クフ王第2の船における舷牆と甲板梁・桁の構造と収まり
3	関廣尚世・Elgazafi Yousif Eshhag	『埃及スーダン発見彩色土器の研究』—京都大学総合博物館所蔵資料から—
4	高橋寿光・阿部善也	エジプト、ルクソール、マルカタ王宮出土の青色彩文土器の X 線分析
5	中野智章	京都大学総合博物館所蔵の古代エジプト資料
6	近藤二郎・河合 望・柏木裕之・高橋寿光	エジプト、ルクソール西岸新王国時代岩窟墓の調査研究—アル=コーカ地区における 2017 年度(第 11 次)調査—
7	伊藤早苗	エサルハドンとアッシュルバニパル治世における学者ならびに書記のネットワーク分析